

新聞をきっかけに、事象に興味・関心を持ち、自ら考えようとする子ども

指定校 2年次 塩尻市立吉田小学校 中野 真衣 谷口 奈美子

(1) 本年度のNIE活動の概要

NIE指定校2年目である本年度は、昨年度取り組んだ「新聞をどのように授業と関わらせるか」で見えてきたことを大切にしながら研究を進めてきた。

吉田小学校は、特色ある教育活動として短歌づくりを行っている。そこで、本年度は新しい試みとして、新聞記事と短歌を結び付ける活動を考えた。黒田マキ氏が提唱している「クロヌリハイク」からヒントを得て、「クロヌリ短歌」として、新聞記事から言葉を拾って短歌をつくる取り組みを試みた。

(2) 本年度のNIE活動をはじめる前の状況

本校は全校児童511名、22学級（内特別支援5）である。昨年度NIE研究部会を立ち上げ、新聞と授業の関わりについて探ってきた。新聞掲示コーナーを設置したりNIE授業実践を行ったりしたため、子ども達は、昨年度の研究を始める前より新聞と関わる機会が増え新聞が身近になってきた。職員も、昨年度は授業と新聞をどうつなげばよいか戸惑った経緯はあるが、1年間研究するうちに新聞を取り入れた授業のイメージがつかめてきた。

(3) NIE活動の狙い（育てたい力）

NIE研究部会 研究テーマ

「新聞をきっかけに、事象に興味・関心を持ち、自ら考えようとする子ども」

(4) 公開授業以外のNIEの取り組みの状況

- 新聞閲覧コーナー設置（6月～9月：4社 10月～1月：3社）
- データベースの利用
- 係内実践授業

①新聞閲覧コーナー設置について

本年度は、毎日の新聞と共に「○○先生の気になった記事」コーナーを設置した。

②係内実践授業について

<新聞と短歌（実践前 係内での話し合いから）>

本年度は新聞記事と短歌を結び付ける授業を考え、2・4・5・6学年で実践に取り組んだ。高学年では「同じ記事の中からことばを拾って短歌をつくれば、記事の読み取りや要約に役立つのではないか」と予想し、授業構想に取り組んでみることにした。

<実践からみえてきたこと>

2年生

昨年度の研究で低学年には写真が有効であることが示唆されたため、記事の写真から短歌をつくる授業をした。2年生が興味をもちそうな写真（動物、スポーツ、風景）を配信し、その中から児童自らが写真を選ぶようにした。はじめに、一つの写真からクラス全体で短歌をつく

り、写真から短歌がつくれそうだという見通しを持った後、自分で選んだ写真で短歌づくりに取り組んだ。動物に関する写真が人気があり、短歌もつくりやすそうであった。スポーツの記事から短歌をつくるのは難しかった。

4年生

4年生には、写真付きの小学生新聞の記事をいくつか配信した。そこから児童自身が記事を選び、記事の言葉を一つ以上入れるという条件で短歌をつくった。小学生新聞はふり仮名がついており、内容も分かりやすいため4年生は記事を理解しやすいようであった。記事は、4年生が興味がある、動物・電車等を選んだ。子どもたちは記事に書かれた言葉を使ったり要約したりして短歌をつくっていた。とても楽しんで取り組んでいた。

6年生

6年生は、新聞記事の写真のみを子どもたちに配信して短歌をつくる活動をした。美しい風景の写真を見て、自分たちが感じて短歌にした内容と、記者がこの写真から伝えたかった記事の内容が一致するか検証するという試みもした。

6年生は、写真からその情景の美しさを感じ取り、担任の問い合わせた言葉からさらに言葉が広がっていったり、想像を膨らませて写真の中にいる人の気持ちを短歌に詠み込んだりした。この授業でも次々と短歌をつくっていく児童が多かった。最後に検証のため、記事（本文）を配信すると、記者が伝えたかった風景の様子と短歌の内容はほぼ一致していることが分かり児童も満足した表情であった。しかし、「検証」まですると、授業の流れや子どもの意識の流れからはずれた活動になるため、最後は記事（本文）を読んで終わらせてよいと感じた。

<考察・本時に生かせそうなこと>

新聞記事から短歌をつくることは、吉田小学校では、どの学年でも児童が楽しく取り組める内容であることが分かった。その際、「写真が有効であること」「子どもたちが興味をもつ内容であること」が大切であることが見えてきた。

また、「記事の読み取りや要約」については、係内の教材研究や児童の様子からそのことを期待するより、新聞記事から新しい言葉や普段の生活では使わない表現と出会う場、「言葉の図鑑」として、記事を幅広くとらえることにした。

(5) 公開授業などの活動内容

5学年 国語科 「クロヌリ短歌をつくろう」

① 単元設定の理由

5年3組の子どもたちは、クラスの友達だけでなく他のクラスの友達も交えて明るく元気に過ごす姿が多くみられる。しかし、自分の意見や考えを表現したり、発表したりするのは特定の子が多い。普段発言しない子も、自分の考えに自信をもった時や教師から声をかけた時には、発表できる姿がある。

本単元では、吉田小学校全体で大切にしている短歌づくりを、スクラップした新聞記事を用いて行う。1年生のころから短歌づくりを行ってきた子どもたちは楽しみながら短歌づくりを行っている。しかし、短歌づくりにおいて「もっとちがう表現を使いたい。」と話す子どもたちの姿もある。また、国語の「新聞を読もう」の単元では、信濃毎日新聞の方に出前授業を行っていただいた。子どもたちは、新聞の読み方を学びながら、新聞を読むことで自分が知らなかったことを知る良い機会になると新聞に興味を示していた。そこで、少しでも多くの子が新聞を読むことを続けてほしいと願い、担任が興味関心をもった新聞を切り抜き、スクラップブッ

クにまとめ、教室に提示をしている。子どもたちは、どんな新聞記事なのかを楽しみにし、記事を読んだ感想や疑問を書き込んでいる。どんな記事が紹介されるのか楽しみにしている子どもたちの姿があり、少しづつ新聞への興味が深まっているように感じる。新聞に興味をもち始めた子どもたちが、新聞の言葉を使うことで今まで自分達がつくってきた短歌とは一味違う短歌になるだろう。その短歌ができた時に、子どもたちはさらに短歌づくりの楽しさや新聞の魅力を実感できると考える。

興味関心をもった新聞記事から初めて出会った言葉や普段自分が使わない表現を選び、五・七・五・七・七のリズムを楽しみながら短歌をつくることで、短歌づくりの楽しさを実感し、さらに、仲間に短歌を紹介することでお互いを認め合える機会づくりの一つになってほしいと願い、本単元を設定した。

② 単元の目標

- i) 思考に関わる語句の量を増し、短歌をつくる中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
- ii) 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方や表し方を工夫している。
- iii) 「書くこと」において、短歌の構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。
- iv) 粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって短歌をつくるとしている。

③ 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、短歌をつくる中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。((1)オ)	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き方や表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ②「書くこと」において、短歌の構成や書き表し方などに着目して、短歌を整えている。 (B(1)オ)	①粘り強く構成や書き表し方などに着目して文言を整え、学習の見通しをもって短歌をつくるとしている。

④ 単元展開の概要

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がつくった短歌をもとに、学習の見通しをもつ。 ・共通の新聞記事を使って短歌をつくる。 ・スクラップした新聞記事の中から、短歌にしたい記事を絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が新聞記事の言葉からつくった短歌を発表し、どのようにつくるのか興味関心が持てるようとする。 ・新聞記事の言葉を使って短歌がつくれるよう呼び掛ける。 ・子どもたちが短歌づくりに使いたい新聞記事を選ぶ時間を十分にとる。 	ア① イ①
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をよく読み、自分が使いたい言葉や表現を探し、印をつけたり、ワークシートにメモしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事をじっくりと読む時間をとり、使いたい言葉に印をつけるように呼び掛ける。 ・新聞記事で自分が使いたい言葉を整理できるようにワークシートを用意する。 	ア① イ② ウ①
3	<ul style="list-style-type: none"> ・使う言葉以外を黒く塗りつぶして、クロヌリ短歌をつくる。 ・つくった短歌を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使う言葉を黒く塗りつぶさないよう注意するように呼び掛ける。 	イ②

⑤ 本時案

i) 単元名 「クロヌリ短歌をつくろう」

ii) 本時の位置 全3時間中の第2時

前時…共通の新聞記事を使って短歌をつくり、スクラップブックから短歌にしたい記事を絞った。

次時…つくったクロヌリ短歌を発表する。

iii) 主眼

新聞には、初めて出会う言葉や普段使わない言葉があることに気づいた子どもたちが、興味をもった新聞記事からクロヌリ短歌をつくる場面で、自分が使いたい言葉や表現を選んで組み合わせることを通して、新聞記事の言葉を使った短歌をつくることができる。

iv) 指導上の留意点

- ・スクラップブックの記事をとっておけるように、選んだ記事をコピーしておく。
- ・前時のふり返りができるように、子どもがつくった短歌を掲示できるように用意する。
- ・短歌が整うまでは、メモ書きできるワークシートを用意する。

⑥ 展開

段階	学習活動	予想される児童（生徒）の反応	指導・支援と評価	時間
導入	1 前時の振り返りをし、本時のめあてを確認する。	<p>学習問題：選んだ新聞記事を使ってクロヌリ短歌をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回は同じ新聞記事で短歌をつかったね。 ・五・七・五・七・七に合う言葉を探せばよかったよね。 ・普段とは違う大人っぽい短歌をつくりたいな。 	<p>○子どもが前時につくった短歌をいくつか黒板に掲示し、新聞を使うことで、初めて出会う言葉や普段使う言葉を使って短歌ができるとの確認をする。</p> <p>○本時の流れを伝える。</p>	7
展開	<p>2 自分が選んだ記事を読み、使いたい言葉や表現に印を付けたり、メモをとったりする。</p> <p>3 印をつけたり、メモしたりした言葉を使って短歌をつくる。</p>	<p>学習課題：自分が使いたい言葉や表現を新聞記事から選んで組み合わせよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと記事を読んで使いたい言葉を確認をしよう。 ・見出しに使われている言葉を使おうかな。 ・5文字や7文字の言葉ってたくさんあるんだな。 ・この前みたいに、普段の短歌づくりで使ったことのない言葉を見つけて短歌をつくりたいな。 <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん言葉を選んだよ。この中からどのように短歌にしようかな。 ・選んだ言葉を組み合わせて、いくつか短歌をつくれてみよう。 ・この言葉を使ってみたいな。 ・少しずつ短歌の構成ができてきたぞ。 	<p>○なかなか言葉を選べない児童には、新聞記事を見ながら短歌に使えそうな言葉と一緒に探す。</p> <p>○5文字や7文字にこだわらず、6文字や8文字になってもよいことを助言する。</p> <p>○選んだ言葉の中から、自分が短歌にしたい言葉を絞っていくように伝える。</p> <p>・新聞記事の言葉を使った短歌をつくることができたか。 (新聞記事・ワークシート)</p>	15 10
まとめ	4 ふり返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を使うことで、普段使わない言葉を使って短歌をつくることができた。 ・新聞記事にはたくさん言葉があって、どの言葉を使おうか迷ったけど、満足のいく短歌をつくることができた。 ・普段とは違った短歌ができてよかったです。 ・たくさん文字があって選ぶのが難しかった。 	<p>○新聞記事を使って短歌をつくてみてどうだったか、活動をふり返る時間を十分にとるようにする。</p> <p>○ふり返りの時に、普段の短歌づくりとの違いに気づかせる発問をする。</p>	8

<p>5 まとめと次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達がどんな短歌をつくったのか気になるな。 ・満足のいく短歌ができたから、早く友達に紹介したい。 	<p>○選んだ言葉だけを残して、黒色で塗りつぶすことを伝える。</p>	<p>○つくった短歌をクラスに発表することを伝える。</p>	<p>5</p>
------------------------	--	-------------------------------------	--------------------------------	----------

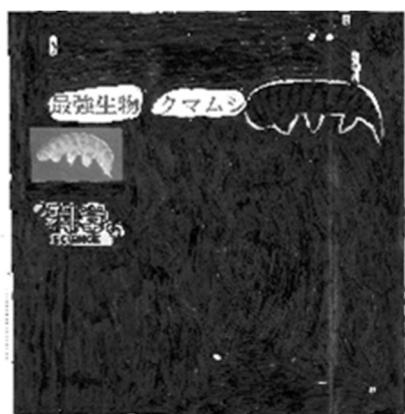
⑦ 児童の様子・考察

< A児 > 「こおろぎの パウダーツカッタ クッキーが 誕生したよ おひとついかが」

一首目を書き終えたA児に担任が、知らない言葉はどんな言葉かを問いかけると「晩秋」と答えた。今まで使ったことないし知らない言葉だったと話す。初めて出会った言葉をうまく使って短歌に表している。2首目の短歌の、「おひとついかが」は1字1字、記事から選んで言葉をつくっていた。新聞記事から想像を膨らませ、記事に合った言葉を自ら考えてつくっていた。

A児は、2首目は短時間でつくり上げていた。記事を要約する力、伝わりやすい言葉を選んだり、つくれたりする力が培われてきたのではないか。

< Y児 > 「さまざまな 極限環境 耐え抜くよ それがクマムシ 最強生物」



一連の活動を通して、新聞から言葉を拾い集めてクロヌリ短歌をつくるには、新聞の一部だけを読むだけではなく、記事全体を読むことが大切であることに気付き、全体の場で「コツ」として伝える姿があった。新聞を「短歌の材料」として見ながら言葉を選ぶより、「言葉の図鑑」として、すべてに目を通して使えそうな言葉を拾うことがクロヌリ短歌づくりへの近道であることをY児の姿から学ぶことができた。

またY児は、「緩歩(かんぽ)生物」という言葉を見つけ出し、短歌に使おうとしていた。大人でも意味の解釈が難しい言葉

あり、結果短歌に使うことはなかったが、記事の「緩歩生物」の言葉の前に、「節のある体に4対計8本の脚があり、ゆっくり歩くという意味の…」という説明があった。児童は意味を理解したうえで使用を検討したことが考えられる。Y児は一連のクロヌリ短歌づくり活動を通して、拾い集めた言葉を取捨選択しながら、短歌を完成させた。まさに新聞を「言葉の図鑑」として活用する姿であった。

⑧ 単元を通して授業者の振り返り

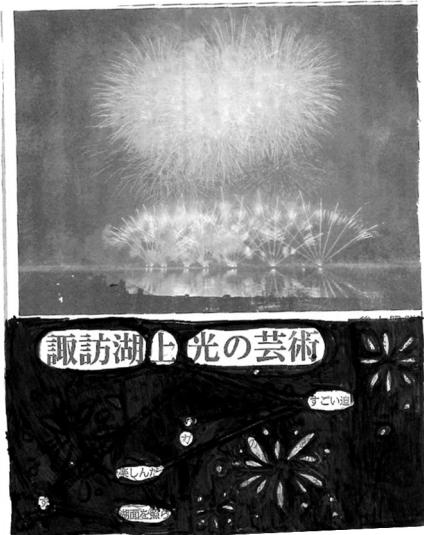
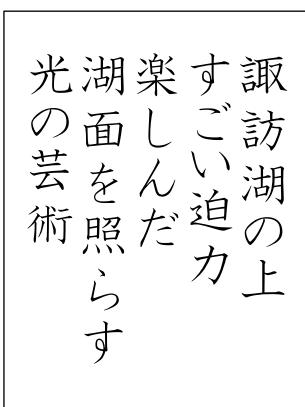
今回行ったクロヌリ短歌は全3時間で構成をした。第1時では共通の新聞を使って短歌をつくれた。塩尻市出身の出口クリスタ選手が金メダルを獲得した時の新聞を扱い短歌を考えた。新聞をじっくり読みながら短歌にできる言葉を探す子どもたちの表情はとても真剣だった。指を使いながら言葉を探し、黙々と短歌をつくっていた。完成した短歌をみると「一位の座」や「悔しさバネに」など普段の短歌づくりでは使わない言葉をほとんどの子が使っていた。子どものふり返りを見ると、「なかなか使わない言葉をつかえた。」や「初めて使った言葉があった。」など、新聞を使うことで自分が使ったことのない言葉を使って短歌をつくれることに気づいた子どもの姿が見られた。また、「言葉を探すのが楽しかった。」と楽しみながら活動を行うことができた。

第2時では、子どもたちがスクラップした新聞記事を一つ選び、それを使って短歌をつくれた。2度目だったので、黙々と新聞記事を読みながら言葉を探していた。しかし、机間指導をしていると、短歌をつくる手が止まっている姿があるので、「言葉を見つけるコツを教え

てくれる人いる？」と子どもたちに投げかけた。すると「見出しを見るといい。」や「一部を見るんじゃなくて記事全体を見るといい。」というようなコツを発表してくれた。これを機に短歌づくりが進み、完成する子が増えた。それでも進まない子がいたため、「お隣で短歌がつくれなくて困っている人がいたら手伝ってあげてほしい。」と全体に伝えた。新聞記事が一人ひとり違うため、うまくアドバイスができるか心配であったが、困っている友達の方に体を向け、記事と一緒に読み、「この言葉いいんじゃない？」と声をかけながら一緒に短歌をつくる姿があった。友達に手伝ってもらい、短歌が完成した時はとても嬉しそうな表情であった。友と関わりながら学習を進めることの良さについて改めて気づくことができた。

第3時では、短歌で使った言葉を残し、他を黒で塗りつぶした。新聞記事に関連する模様を入れるなどアレンジを加えて色を塗る姿もあった。完成したクロヌリ短歌を見た子どもたちには満足したようで、友達と見せ合いながらお互いの良いところを伝え合う姿があった。

クロヌリ短歌を通して、新聞は新しい情報を与えてくれるだけでなく、使い方次第で様々な用途があることが分かった。今後の授業でも新聞を活用していきたい。



(6) 1年間取り組んだ成果と課題

<成果>

- ・短歌をつくることに慣れている吉田小学校の2年生～6年生の子どもたちが、新聞をもとに新鮮な気持ちで短歌づくりに取り組めた。
- ・新聞を「言葉の図鑑」として利用できる。新聞から短歌をつくることは、高学年にとって語彙を豊かにするための手立てとなった。
- ・短歌をつくるために言葉を使おうと思うから記事をよく読む。また、記事全体を読まないと短歌ができないということにも子どもは気づいていた。短歌づくりに新聞を取り入れることでよい連鎖が起きた。
- ・子どもたちは全体を読んで記事のおよその内容を理解してから使おうとするため、短歌づくりの授業を行うと、活動をしながら新しい知識もどんどん子どもの中に入ってくる。
- ・見出しの言葉は、短くまとめられており、七五調になっていることが多いので、使いやすい。

<課題>

- ・子どもが選んだ新聞によっては、内容が難しくて短歌にするのが大変な児童もいた。「低学年は記事を先生が選ぶ」。そして経験を積み、「高学年は本人が選んだ記事が使いやすいかどうか教師がアドバイスをする」など発達段階に合わせた記事選びの工夫が必要である。
- ・本年度は研究のため、子どものための新聞が豊富にあり使いやすい環境にあるが、新聞が止まってしまうとその環境が無くなってしまう。記事を配る・データベースを活用するなど、新聞と短歌をつなげる工夫が必要になる。短歌を大切に考えているので、工夫しながら、短歌と新聞をつなげる活動を続けていきたい。